

別記様式

## 会 議 録

会議の名称	令和6年度第7回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和6年10月15日(火) 午前10時30分～午前11時20分
開催方法	公室
出席者氏名	市長 菅原文仁 副市長 豊島浩明 委員長 佐藤徹 副委員長 長野基 委員 青山裕之 委員 溝上西二 委員 宮崎仁美 委員 悴田康二 委員 古賀麻明利
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	企画財政部 吉野部長 清水次長 共創企画課 渡辺課長 石嶋主幹 北田副主幹 薄葉主事
議 題	答申及び意見交換
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・次第 ・答申書及び別紙

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
市長	<p>1 開 会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>本日は戸田市の外部評価委員会の答申で、朝早くからお集まりいただき、また日頃から委員の皆様には本市の市政運営、そして今回の評価においていろいろ御協力をいただき感謝申し上げます。</p> <p>特に佐藤委員長、長野副委員長には長年にわたり本市の外部評価委員として、いろいろな御支援や御提言をいただいた。次年度予算に今回の評価結果を紐づけていくというところで、4月から短い期間で6回委員会を行い、実のある議論がなされたと聞いている。戸田市の実施事業について、外部から評価をいただくということで、6施策でいただいた御指摘を改善策につなげていきたい。忌憚のない御意見をいただき感謝申し上げます。</p> <p>戸田市の10年間の計画である総合振興計画が令和8年度に折り返しを迎えるため、令和7年度は大きな見直しをする節目である。その中で、皆様からの指摘も踏まえて後期基本計画の策定につなげたい。</p> <p>本日の皆様の感想なども伺いながら、しっかり受けとめていきたい。何卒よろしく願い申し上げます。</p> <p>3 意見交換</p> <p>(JR線の遅延により、次第の3答申と4意見交換の順序を入れ替えて実施した。)</p>
委員	<p>私は25年以上戸田市に住み、実際の市の施策の恩恵を享受してきた。今回公募を見て応募し、実際に戸田の行政の現状と今後の計画を外部評価委員会委員として見ることができ、非常に戸田市への愛着も上がった。特に私の世代や今後の若い世代も市の発展に関わっていかれたらと思う非常に貴重な機会だった。来期もよろしく願います。</p> <p>このような場においては、私と同世代、もっと若い世代の参加は厳しいと思うところもあるので、そういった方が、情報をキャッチできるような、もっと若い人が関わる形になると良いと改めて思った。</p>

<p>委員</p>	<p>評価した6施策について、消防関係と子育て関係は専門的で評価が難しかったが、良い水準にあると思いA評価にした。</p> <p>他の4施策については、決定力に欠ける部分が多かった。なぜかという、戸田市特有のこだわりがあまり感じられない。いわゆる東京24区のような捉え方があり、戸田の特色を生かして事業を展開していこうという視点が乏しく一般論に流れてしまっていて、どうも心に響かない部分がある。一般的な合理性という面では合点がいくところもあるのだが、戸田市とは…というところが見えない。</p> <p>いろいろな指標や施策が挙げられているが、その指標が戸田市にあったサイズになってない。戸田市のサイズとは、戸田市の現状の欠点を認識し、それを戸田市なりに次の段階に持っていくということであり、そこに意識がいて欲しい。</p> <p>戸田市の市民憲章や平和都市宣言、それから市の花や木の制定の経緯を読ませてもらった。辛うじて戸田のアイデンティティを感じられたのは、市民憲章の冒頭で「豊かな荒川の流れと、うるわしい武蔵野の大地をふるさととする」とあり、この捉え方が非常にいいと感じた。だが、そこを生かす観点やこだわりが感じられない。平和都市宣言も読んだが、戸田市の特徴は何も入っていない。戸田の市民に根付いていない。</p> <p>それから市の花の経緯で、荒川の一帯にサクラソウが繁茂して、非常に綺麗な景観を作り、大勢の市民が見に訪れたことから、サクラソウを市の花に選定したということであった。だが、市役所の敷地でサクラソウを見たことがない。市の木、キンモクセイも行政の発信地である市役所の敷地に7本程度しか植えられていないように見え、PR的に植樹しないのかとってしまう。</p> <p>東京への通勤が便利であるので、人がどんどん流入し、いわゆる戸田都民のような人々の比率が増えている。悪い側面ではないが、戸田の行政なので、私は戸田の特色を生かした事業にこだわって欲しいと考えている。</p> <p>もう1つ、市長に一言申し上げたいことがある。戸田市役所で、一番感心したのは玄関前にあった花壇近くの桜の木だった。これは良い桜で、樹齢からいろいろ感じられるものがあつたが、見事になくなってしまった。</p> <p>私も昔の勤務先で、30年前ぐらいに独身寮や社宅の周辺に桜を植えた。</p>
-----------	--

	<p>ところが、モータリゼーションにより、従業員の通勤手段がマイカーに変わり、社宅の周りの桜の木の下に車を停める機会が増えた。そうすると駐車場に樹液や花びら、葉っぱなどが落ちて従業員の車の管理が大変になるので、桜の木を切ってくれという要請が出た。私はその時の責任者で、樹齢35年で盛んに花を咲かせる桜を切れないと思い、切るのをやめたことがあった。</p> <p>先人の思いがベースとなって、いろいろな人たちのアイデンティティができてくると思うので、それを継承することは非常に大事だと思う。その辺を基礎に行政として活動して欲しいと率直に思った。</p>
委員	<p>前回の2年間の外部評価委員の任期を経て、引き続き今期も務めさせていただいている。今回もいろいろ勉強になることばかりであった。残りの任期もよろしく願います。</p> <p>その他の話で花火大会の感想だが、非常に良い天気で自宅からもはっきり見えた。周りの見ている人たち、特に子供たちの歓声があちこちから聞こえて、すごく良い1日だった。これからも是非続けていってほしい。</p> <p>戸田市は祭りが多いと思う。年間を通じていろいろな祭りをやっている。そのような中で、毎回たくさんの方が来場するのは、祭りが戸田に根づいて、皆、それを通じて戸田市に愛着を持つからなのだと思う。そういった点で、やはり祭りもすごく大事な要素だと思う。</p> <p>私自身が福祉や教育に関わっているので、そちらに目がいくことが多いが、こども医療費の対象年齢の拡大や、北大通りの雨水貯留施設の整備などの取組を見ると、待ち望んだことを進めてくれている。不登校対策など、これからもみんなの要求をどんどん酌んで取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>私は、戸田市商工会の会員として参加している。第5次総合振興計画の、生活や医療、教育、それから都市まちづくり等に関する施策について拝見した。医療や福祉も大事であるが、戸田市で50年近く会社を経営し、いろいろ活動してきた商工会員の立場から申し上げる。市内に約5200の事業所があり、その中で大体6割弱が戸田市商工会に加盟している。私も商工会の役員になり大小様々な企業を訪問したが、業績が伸びている企業もあれば、今日でも明日でも店を閉めざるを得ないという悲惨な声も聞いたりする。その中で市民生活はもちろん大事だが、戸田市の経済、雇用の好循環に少して</p>

も力を入れて欲しいと思った。

戸田市においては、令和3年度から7年度までの5か年間で戸田市経済戦略プランがある。戸田市商工会でも第3次5か年計画があり、こちらの計画期間も令和3年度から7年度までと戸田市経済戦略プランと同じである。外部評価委員に任命されているいろいろ調べた結果同じ期間であることが分かり、商工会と環境経済部で深掘りできればと実感した。

昭和41年に市政が施行し60年弱が経ち、その間、埼京線が開通して3つの駅ができた。開通して40年近くになり、戸田公園駅、戸田駅、北戸田駅も西口が開発されて駅前らしくなったが、もう一方の東口の開発も進むと嬉しい。駅前開発にこんなに時間がかかるものなのかと常々思っている。

下水処理について、文化会館付近や戸田駅辺りにも食堂やレストランがあるが、下水の臭いをすごく感じる。食事に行くところに臭いがすると、店に入る前から不快に感じてしまう。

新曽第一地区と第二地区の区画整理、新曽中央地区の整備がそれぞれ少しずつ進んでいるが、地主や地権者に気を遣って、戸田市の職員が控え目にしていると個人的に思う。もう少し行政の力で、言うことは言ってもらって街づくりを積極的に進めた方が良いと思っている。

個人的に戸田の開発が遅いと感じるので、行政の力を発揮しながら、個人の土地といえども日本の土地でもあるので、皆さんに御協力をいただきながら、推進してもらいたいと考えている。

委員

今回公認会計士協会埼玉会からの推薦で外部評価に初めて参加している。外部評価の観点では初めて戸田市に関わった。フレッシュな目線でいろいろ拝見した。公認会計士は、意思決定のプロセスや、施策策定のプロセスの流れを重点的に見ることができる方が多いイメージがある。私もそのような目で6施策を拝見した。

まずはこの外部評価委員の構成が素晴らしいと思った。非常にバランスが取れている。市民の目もありながら、経験の非常に多い委員長、副委員長、今回外部評価で様々な意見、専門家の目からいろいろな話が飛び、非常に私自身勉強になった。その中で私に何が言えるかを考えながら先程の目線で見えた意見を評価結果に書いた。

ロジック・モデルシートは策定や計画を可視化する点で非常に良い反面、

現場で運営する側の役所内での浸透がなかなか難しいという感想もあった。ぜひ良い制度なので、前例踏襲ばかりではなく、ロジック・モデルシートの域をしっかりと考えながら、随時更新すると非常に良いと思った。

私もさいたま市などの市民活動や経済活動に参加しながら埼玉県の仕事もやっている。是非、横の連携をとっていただきたい。埼玉県の特に南部においては「埼玉都民」と言われるように、総じて地元への関心が薄く、市民活動への参加も消極的な層が多い反面、地元で生まれ育った層を中心に、地元愛が強く積極的な地元文化を維持・醸成・発展させるムーブメントが確認でき、戸田市も同様であると感じた。やはりその情勢は非常に大事だ。「埼玉都民層」の皆さんは、住みやすい自分の街が好きだが、都内に勤めていると、なかなか地元活動への参加に踏み出せないという現状があるので、それをうまく刺激していく施策を実施してほしい。戸田市では祭りが多く、それも地元活動への参加のよい機会なので、祭りを「埼玉都民」にとっての「消費」の場としてだけでなく、「地元愛をさらに醸成できるコミュニケーションの場」とできれば、さらに素晴らしいと思った。

最後に、北戸田で行うウォークابل事業についてである。国交省からウォークابلを推進する政策により全国の自治体でもそれを推進している背景があると思うが、是非ウォークابلを外形だけでとらえずに、戸田市に合った形でのウォークابلを検討されると非常に嬉しい。

ウォークابلの本流であるヤン・ゲールの「人間の街」という書籍や、その彼の弟子のデイビッド・シムの書籍「ソフトシティ」では、まちはソフトなもの、やわらかいもの、という考え方を非常にわかりやすく示した書籍だ。それを参考にしながら、ウォークابلを国交省が出した事例にとらわれず、しっかり議論できれば、とてもソフトな、ウォークابلなまちづくりができると思っている。

委員

今回の施策点検対象は、これは結果的に偶然だが、その取り組みを設計した時期がまさにコロナの時代だった。議論し検討するときに準拠する期間や対象が、コロナ禍であったことが、各施策にやや制約を与えていた面が大変多くあったと感じる。

次の計画の見直しを考えるときに、コロナ禍を前提に作ってしまったが、コロナ禍の開けた瞬間に国の政策として大きく変わったものがあった。

これは結果としてコロナ禍明けに変わったものを踏まえたときに、今回検討した取り組みの準拠しているものや期間の制約が変わったことになる。見直す過程のときに準備すべきことが目についた。

次は残念なところもあった。戸田市の計画づくりのとても面白いところは、価値の優先順位をつけるために冊子内にアンダーラインを引くところだ。普通計画は項目ごとで、大切なのが戦略計画部門だ。1つの取り組みの中で、ここを注目しろという印を付けるのがすごく面白い設計の仕方をしているのだが、外部評価ヒアリングにおいて、印が付いている案件について深堀りして聞くと、それは協働会議にてそういう発言があったからというレスポンスが複数あった。それは検討していく手順の中で各部局がプロフェッションとして反論しなかった可能性があったことを意味する。市民の公開の場で言わなかったからではなく、現場の判断や反論がなかったがゆえに結果として、他人事のような雰囲気があったのは残念だった。

この次の見直しの過程は、コロナが終わって、フォーメーションが変わる段階だ。現場のロジックを全部受け入れたら逆に計画破綻する面もあるのでそれは難しい。共創企画課が調整すべき部分もあると思うが、行政職員による専門性を引き出す手順がより強調されるのが次の課題だと思う。

委員長

戸田市の外部評価委員を務めて10数年になるが、その間ずっと評価制度をブラッシュアップして今日に至っている。戸田市の外部評価は本当に楽しく参加させていただいて、私自身も非常に勉強になっている。

さて、EBPMに関して戸田市は学校教育分野では非常に先駆的な取り組みを行っており、全国的にも大変有名である。それが学校教育分野以外の様々な政策分野にも波及していくと良いと思っている。多分市長もそう考えていると思っている。外部評価委員会では、様々な政策についての外部評価を行っており、ここ数年ロジック・モデルが導入されていったその過程を見ていくと、だんだんと施策を担当する次長・課長のプレゼンテーションが非常にスマートになってきた。その一方で、まだまだ浸透が道半ばと思う。

政府は2017年頃からEBPMを本格的に推進し始めて、政策評価においてロジック・モデルが活用されつつあるが、今年は骨太の方針の中で、初めて「ロジック・モデル」と言葉が登場した。

行政事業レビューではロジック・モデル的な要素が組み込まれているし、

自治体でもロジック・モデルが活用され始めている。

今回の答申の別紙資料の37ページは、行政評価制度の改善等に関する委員から寄せられた意見が集約されている。例えば総合振興計画上で取り組むものと定めている内容が、計画に実行と書いてあるにもかかわらず、ロジック・モデルシートに記載されていない事例が目立ったということであったり、ロジック・モデルの意図するところが実現されていないと思うとか、ロジック・モデルの意義が失われ事務量が増えるだけになってしまう。そのような状況が続けばということだが、非常に厳しい指摘もあった。

もしかするとロジック・モデルに関しては、今が正念場かもしれない。このまま何か手を打たなければ、ロジック・モデルという書類を作ることが目的化する、その結果として事務量が増加することになりかねない。

人事異動で組織が新陳代謝され担当者が変わると、ロジック・モデルの意味や活用法が引き継がれない懸念がある。また、外部評価で選ばれた6施策に関してはしっかりとロジック・モデルを作ったり読み込んでいたりするのかもしれないが、それ以外はどうなっているのか、定かではない。

例えば、新規事業を立案するときにロジック・モデルで検討する。予算編成過程で財政課との交渉の際にロジック・モデルをたたき台にして議論する、或いは庁議や政策会議の政策の意思決定の場で積極的に活用していけば、ロジック・モデルがコミュニケーションツールとして、また組織文化として根づいていくと思う。ぜひ市長にはメッセージを発信していただきたいと思っている。

市長

いただいた意見、改善内容について、しっかり庁内で共有し、またこの場でいただいた意見も私自身真摯に心に留めたい。また、特に今回は委員長からもロジック・モデルについての厳しい御指摘をいただいている。ここについては協議の場や全体的な政策立案においてもしっかりと活用していかなければならない。これが共通言語になると良いと思っているが、なかなかそうになっていない。前例や現場から上がってくる情報を元に話をするのが常なのかなと思う。当たり前を変えていく努力もしていけないといけない。

今回のこの評価委員会の中でも、相応しくない指標の設定など、これはそのとおりだという話が幾つかあった。それを最初に作った時点で私自身も見抜けなかった。そこを恥じている。



次の後期基本計画に向けて、そういったことがないように取り組んでいきたい。また各委員も2年目になるともっと慣れてくるので、違った視点の御意見もいただけると思って楽しみにしている。共創企画課もいろいろいただいた御指摘を受けとめるだけでなく、広げていかなければならない。事務局はそこも大事にしてもらいたい。引き続き皆様から貴重な御意見をいただきながら、しっかりPDCAを回していけるように頑張っていければと思っている。本当に感謝申し上げる。

4 答 申

5 閉 会